

第2期 なんぶ創生総合戦略

令和2年9月
南 部 町

— 目次 —

はじめに	1
第2期なんぶ創生総合戦略	3
1 豊かな里を紡ぐまちづくり	3
2 豊かな里が心育むまちづくり	6
3 豊かな里に調和するまちづくり	12

はじめに

南部町では、平成27年9月、地方創生に向けた地方版総合戦略として「なんぶ創生総合戦略」を策定しました。策定にあたっては、本町独自の取組みとして、各分野でご活躍の町内外の方で構成する「なんぶ創生100人委員会」を設置し、いただいた提案を尊重して策定しました前戦略は令和元年度が最終年度となります。

この間、IJUターンの促進、雇用の創出、本町独自の子育て支援施策の充実、地域の活力創出など大きな成果が現れています。

「第2期なんぶ創生総合戦略」（以下、現戦略という。）の策定にあたっては、100人委員会で検討・立案された前戦略を尊重しつつも、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、「まち・ひと・しごと創生基本方針2019」及び「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を勘案しつつ、本町における現状及び将来に向けた課題への対応等を盛り込んで策定しており、現戦略に掲げる取組を5年の計画期間を通じて遂行することにより、地方創生を加速させ、その実現を通して、50年先、100年先も本町が輝き続けられるよう、持続可能な地域社会を目指して地方創生に取り組んでまいります。

1 総合計画における「まちづくりの大黒柱（基本理念）」

（1）共生

南部町合併以前の旧町から南部町第一次総合計画においても特徴的に取り組んできた「人権」「福祉」などのいずれの分野にも共通する、子どもから高齢者までの誰もが、住み慣れた地域で、いつまでも心豊かに暮らせるよう、地域全体で支え合う「共生」のまちづくりを推進します。

また、自然と共生する環境に配慮したまちづくりを進めます。

（2）協働

多様化する地域課題に迅速かつ的確に対応するためには、町民や各団体等、行政との協働によるまちづくりを推進する必要があります。

未来を拓くひとづくり、元気に暮らすまちづくり、安心安全なまちづくり等、各分野において、「自分たちのまちは、自分たちでよくする」という考えのもと、地域を構成する多様な主体が責任と役割を認識し、自助・共助・公助を適切に組み合わせて、相互の連携と協力による協働のまちづくりを推進します。

（3）環境

「なんぶ暮らし」の土台となる、豊かな自然環境と長い歴史の中で培われてきた里地里山環境を守り育みます。

2 第2期なんぶ総合戦略策定の目的

全国的な問題として、東京圏への人口一極集中、人口減少社会が取り沙汰されている中においても、里地里山の良さを感じながら、住み慣れた地域で安心して暮らし続け、自然環境や歴史・文化等の地域の資源を活かしつつ、本町が将来にわたり発展していく活力を創出し、持続可能な南部町を実現することを目的として、「第2期なんぶ創生総合戦略」を策定するものです。

3 総合戦略の構成

「第2期なんぶ創生総合戦略」は、平成31年4月に策定された「第2次総合計画」にあわせ、「豊かな里を紡ぐまちづくり」、「豊かな里が心育むまちづくり」、「豊かな里に調和するまちづくり」を3つの取組みを柱に据え、各分野ごとに「めざす姿」、「持続可能な開発目標（SDGs）」及び「具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標（KPI）」を盛り込み施策の展開につなげていきます。

（1） 取組みの3つの柱

ア「豊かな里を紡ぐまちづくり」

開かれた町政に努め、町民と行政との信頼関係を構築することで、自治を醸成し、協働によるまちづくりを推進するとともに、行政経営の視点から、町民とともに、豊かな里を紡ぐ自治体の基盤を築きます。

イ「豊かな里が心育むまちづくり」

一人ひとりの「人権」が尊重される社会の実現をまちづくりの大黒柱とし、学びを通して誰もが認め合い、支え合い、つながり合って、「心育む」なんぶ暮らしの創造に取り組みます。

ウ「豊かな里に調和するまちづくり」

暮らしの中心である生活道路の改良と上下水道施設の維持・更新により、生活環境の充実に努め、快適で豊かな農山村づくり・ゆとりある住まいづくりの基盤整備と維持に取り組みます。

また、愛郷心を持ち、町内に住み続けることができる環境や体制の整備を図ることで人口減少を抑制するとともに、魅力的なまちづくりを進め、町内・地域内交流の活性化のみならず、町域・県域を越えた交流に取り組み、関係人口の増加を図ります。

4 計画期間

2020年度（令和2年度）から2024年度（令和6年度）までの5年間

5 検証の実施

総合戦略の推進にあたっては、施策の実施計画を定め、着実な実現を目指します。

あわせて、重要業績評価指標（KPI）の進捗状況など施策の効果を検証するため、外部の有識者で構成される第三者機関を設置して毎年検証を行い、その提言をもとに、総合戦略の施策の見直しなど総合戦略の改定を行います。

第2期なんぶ創生総合戦略

1 豊かな里を紡ぐまちづくり

(1) 次代へつなぐまちづくり

【めざす姿】

- 町民と行政が互いの特性を活かしながら、役割を適切に分担し合い、地域課題の解決に向けて協働する地域づくりと、地域住民が主体的に課題を解決するまちづくりをします。
- 地域の課題や状況に応じて、行政経営を効果的・効率的に進めます。
- 多くの町民が主体的に町政やまちづくりに参画できるように取り組むとともに、広報・広聴活動を強化し、町のイメージや魅力を発信します。

SDGs（持続可能な開発目標）のゴール



(2) 活力ある産業で輝くまちづくり

【めざす姿】

- 集落営農、法人など共同化を進めることで地域の農地の保全や産地の維持を図るとともに、次を担う若者の新規就農を増やすことで持続的な農業をめざします。
- 農産物の加工や六次化のほか食の安全にも取り組み、農産物に付加価値をつけることで、農業者の所得向上をめざします。
- 人工林を中心に適正な間伐等を推進し、林地所有者の意欲向上と林業者の育成を図り、林地の荒廃を防ぎ豊かな里山の保全につなげていきます。
- 森林資源、竹林資源を有効活用し、循環して再利用できるシステムが構築できるよう取り組みを進めます。
- 町内企業が持続的に活動し、地域雇用の場として確保され、安定した所得をうみだすことができることをめざします。町内での起業・創業を促進し、新たな雇用創出が図れるきめ細やかな支援を行います。

SDGs（持続可能な開発目標）のゴール



(3) 具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標 (KPI)

基本事業	施策名	具体的な施策	KPI	現状指数
開かれた町政と自治協働の推進	ふるさと納税による歳入の確保	ふるさと寄付を通じて南部町を全国に広報し、歳入増加を図ります。	80,000 千円 (R6 寄付額)	56,269,765 円 (R1<R2.2 月現在 >)
	官民連携による魅力発信	SNS 等のシェア機能等により、南部町の魅力を発信する団体等と連携した情報発信を行います。	町のフェイスブックページのフォロワー数累計 1000 人	819 人 (R2.2 月現在)
	地域振興協議会の法人化	町内 7 つの地域振興協議会について、国で検討中の小規模多機能自治組織にふさわしい法人制度創設の動向を見据えて、法人化の検討を行います。	・小規模多機能自治推進 NW 会議での情報収集 ・協議会との検討会	情報収集
	民間活力による地域課題解決	全国的な中間支援法人及び地域振興協議会と連携を図り、民間企業も含めた地域貢献、問題解決を図ります。	本年度計画策定着手	—
魅力ある農林業と商工業の振興	ローカル電子マネーの導入	南部町版の多機能ローカル電子マネーの構築、導入を図ることにより、地域経済活性化をはじめ、小学生の行動確認・高齢者追跡など、地域の見守り・防犯などに役立てます。	町内加入者 80%	—
	起業・事業展開支援	飲食店、喫茶店、製パンなど町民のニーズの高い業種への新規起業や後継者の確保を支援します。 また、町内企業の新規起業や新分野への事業展開を支援します。	・起業件数 10 件 ・町内企業支援 5 件 (R2~R6)	・起業件数 16 件 ・支援件数 13 件 (H27~R1)
	起業家の育成	本町の特色（農業、自然、保育、医療、福祉、観光分野等）を活用し、課題に対応した創業チャレンジセミナーを開催します。	創業チャレンジセミナー5回 (年1回開催)	創業チャレンジセミナー5回 (年1回開催)
	町内店舗の受け入れ環境整備	町内店舗等におけるキャッシュレス利用可能店舗の増加を図ります。	キャッシュレス決済可能店舗数累計 30 店舗	18 店舗 (商工会員のみ)
	新規就農者の育成支援	就農研修プログラムを作成し町内外の法人又は農家で研修制度を設け、人材育成を図ります。また、あわせて住居、農地の確保支援による環境体制を整えます。	・新規就農者 5 人 ・親元就農者 2 人 (R2~R6)	・新規就農者 3 人 ・親元就農者 1 人 (H27~R2.2 月)

新規営農法人の 設立支援	営農相談、情報提供の充実を図るとともに、経営コンサルタントや特色ある農業経営者を町内外から招致し、講演並びに研修会を開催し、営農活動への意欲の高揚を図るなど、新規営農法人の設立を支援します。	新規法人設立 1法人 (R2~R6)	3法人 (H27~R2.2月)
集落営農組織の 設立	プランの実質化に向け集落説明会を行います。また広報により情報提供を行う。日本型直接支払い制度の説明会を利用して集落営農の機運を高めます。	新規組織 3組 組織(R2~R6)	3組織 (H27~R2.2月)
新規作物栽培の 支援	先進地視察、栽培講習会、経営試算を行い生産者が取り組みやすい補助を含めた環境作りを行います。	・エゴマ作付け 面積累計 5ha ・新規作物 1品 種(R2~R6)	・エゴマ作付け面 積 1.7ha) ・1品種(エゴマ) (R2.2月現在)
特産加工品の開 発・販売促進支 援	加工施設の設備内容をPRし、加工品に関心を持ってもらうとともに、HPで新たな商品を積極的に紹介します。また、フリーズドライの活用商品の開発支援を行います。	・加工品開発 2品 ・販路拡大2か 所 (R2~R6)	・加工品開発 3 品 (H27~R2.2月)
地元食材の供給 支援	直売所生産者と情報交換し、支援策を実施し小規模農家の意欲継続につなげます。また、学校食材の契約栽培を始めます。	・直売所売り上 げ 3300万円 (R6) ・学校給食提供 率 60%(R6)	・直売所売り上げ 2800万円 (R2.2月現在) ・学校給食提供率 47%(H30)
南部町産米のブ ランド化	土壌深度の適正などを周知し、食味コンテストに参加する意欲ある農業者を育成します。	コンテスト決 勝進出	—
スマート農業の 取り組み支援	国の実証実験の取り組みができるように最新の情報を入手し、農業者に提供するとともに、その取り組みを支援します。	スマート農業 実証実験 2件 (R2~R6)	—
中山間地水田維 持支援	日本型直接支払い制度の広域化の取り組みを支援し、農地維持を図ります。	協定面積 現 状維持	協定面積 329.8ha
森林資源の活用	間伐材の搬出助成や機械購入支援により林業の活性化を促します。	間伐材 3,000m 3/年(R6)	—
町有林（町行造 林含む）の活用	ミトロキ町有林の計画的伐採、町行造林地の価格査定を実施し、資源活用を行います。	・計画づくり ・町行造林調査 50か所 ・町行造林伐採 30か所 (R2~R6)	—

2 豊かな里が心育むまちづくり

(1) 地域とともに未来を拓くひとづくり

【めざす姿】

- 部落差別の解消、障がい者差別の解消、男女共同参画社会の実現などに向けて、身のまわりの差別や不合理に気づき、考え、行動する人づくりに取り組みます。
- 保小中一貫した人権教育に、地域や家庭と連携しながら取り組みます。
- 0歳から18歳までの保育・学校教育・社会教育を通じて、「健全な心と体」、「確かな学力」、「学び続ける力」、「未来を生き抜く力」を育み、自らの夢や目標が持てるように育成します。
- 夢と志を持ち、ふるさとへの誇りと未来を生き抜く力を育成するため、地域や家庭との協働・連携により、子どもが安心して育つ教育・保育、家庭教育の環境づくりを推進します。
- 高校生サークルや青年団の地域づくり活動への参加・参画の仕組みづくりに取り組み、仲間と協働できる地域リーダーを育成します。

SDGs（持続可能な開発目標）のゴール



(2) 暮らしに学びが息づくまちづくり

【めざす姿】

- 生涯学習のある町づくりを進め、豊かな学びを通してまち(地域)を支える人材の育成に努めます。
- 生涯学習を支える拠点施設として、住民の求める知識や情報を迅速かつ的確に提供していく図書館をめざします。
- 里地里山に学びながら、郷土の歴史や文化を保存・継承し、町づくりや地域づくり、ふるさとの誇りづくりに活かします。
- スポーツ環境の整備を図るとともに、スポーツを通じた仲間づくり、健康づくりを推進します。

SDGs（持続可能な開発目標）のゴール

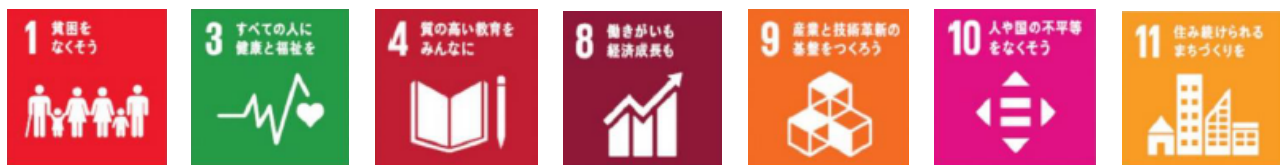


(3) ともに支え合い元気に暮らすまちづくり

【めざす姿】

- 子育て家庭を応援し、将来親になる世代が希望をもって子どもを産み育てられる環境づくりをします。
- 地域の中で、心豊かに自立した子どもが育つ環境づくりをします。
- 妊娠期から子育て期までの切れ目のない支援のネットワークを構築します。
- 障がいのある子やひとり親家庭など、特に支援を要する子どもと家庭への支援体制の充実を図ります。
- 町民一人ひとりが健康を意識して健康的な生活習慣を身につけることで、健康寿命を延ばします。
- 高齢化が進む南部町にあって、西伯病院では、町民が安心して地域で暮らし続けることができるよう、「治し、支える」医療を提供できるよう努めます。
- 健診の受診率の向上や健診後の健康指導の強化により、重症患者を出さない取り組みを進めます。
- 国民健康保険・後期高齢者医療の安定的な運営を図ります。
- 被保険者の健康維持・増進を図ります
- 生活困窮世帯が健康で文化的な生活が営めるように支援を行います。
- ひとり親家庭の経済的負担を軽減し、児童の健全な育成と福祉の増進を図ります。
- 障がいのある人もない人も安心して暮らせる「ともに歩む福祉のまちづくり」をめざします。
- 住み慣れたまちで自分らしい暮らしを送り続けるため、体操を中心とした身近な集いの場を普及し、地域全体で介護予防・認知症予防に取り組みます。
- 地域全体で支え合う仕組みづくりをめざします。
- 安心感と生きがいを持ち、生涯現役で活躍できる地域づくりを進めます。
- 地域の課題を「他人事」ではなく、「わが事」としてとらえ、住民が主体的に課題を解決できる地域づくりを進め、必要なサービス等が円滑に利用できるよう、相談窓口体制を充実します。

SDGs（持続可能な開発目標）のゴール



(4) 具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標（KPI）

基本事業	施策名	具体的な施策	KPI	現状指数
人権尊重 社会の実現	人権教育・人権啓発推進	「ミカエル・セミナー」、「振興区別人権問題交流懇談会」、「人権コンサート」の充実と「南部町における部落差別をはじめあらゆる差別をなくす総合計画」の改訂に取り組みます。	参加者数 750人(年)	参加者数 750人(H30)

保育及び学校・家庭教育の充実	地域子育て支え合い事業	親、祖父母が現代の子育て環境を学び、子育て世代に対し適切に経験や知識を提供することで、親の子育てと仕事の両立支援につなげます。	・子育てセミナー4回(年) ・孫育てセミナー2回(年) ・発達支援セミナー8回(年)	・子育てセミナー4回 (R1) ・孫育てセミナー2回 (R1) ・発達支援セミナー8回 (R1)
	「まち未来科」の学習の充実	担当者会により、各校の実践共有を行います。また、地域代表やCSコーディネータも参加者とし、学校と地域が一体となって職業体験ができる場を提供するとともに、「まち未来会議」の充実や提言の実現化を推進します。	全国学力・学習状況調査質問紙における該当項目を県平均以上とする。	「将来の夢や目標」(R1) 小学生県比較ー8.4ポイント 「地域貢献」(R1) 小学生県比較ー15.2ポイント
	保護者負担軽減事業	教育にかかる保護者への負担軽減の観点から、学用品費や教材費、交通費の補助等経済的な負担軽減策を講じます。	経済的な負担軽減策の継続実施	経済的な負担軽減策の継続実施
	GIGAスクール(ICT活用教育の充実)	タブレット端末、無線LANを整備し、各教科の指導に活用します。また、教職員のICT活用のスキルアップをめざして研修会をもち、あわせて、児童生徒や保護者に情報モラルに関する教育も行います。	・校内LAN整備令和2年度完了 ・各校端末整備令和5年度完了	—
生涯学習の推進	若者の人材育成・仲間づくり	高校生サークルの充実を図るため、高校生は韓国との国際交流事業、地域活動を充実させます。青年団の自立を図るため、徳島県石井町青年団との交流を行います。	・高校生サークル会員数累計30人 ・新青年団会員数累計50人	・高校生サークル会員数31人(H30) ・新青年団会員数48人(H30)
	SNSの活用	インスタグラムを利用して、町外にいても南部町の情報が得られ南部町に所属しているという意識を持たせるシステムの構築を進める。	新規フォロワー数100人(年)	インスタグラムフォロワー数130人(R2.2月現在)
	複合施設における体制整備	新館オープンを契機に来館増につながる様々なイベントを企画します。特に様々な世代が集い、交流できる活動に取り組みます。	複合施設入館者数30,000人(年) ※R2開館準備 ※R3開館	さいはく分館、法勝寺図書館の利用者数20,500人(H30)
歴史・文化及びスポーツの振興	法勝寺電車プロジェクト	複合施設内に法勝寺電車展示コーナーを設置し、ジオラマ等の工夫を行いながら、広報と活用の充実に取り組みます。	—	—

	祐生出会いの館の集客促進	祐生コレクションの効果的な発信を行うために、館の企画と運営の充実を図ります。また、観光ツアーなどを活用して来館者の増加に取り組みます。	入館者数 4,500人(年)	入館者数 4,350 人(H26～30の平均)
	スポnet なんぶの充実	地域総合型スポーツクラブ「スポnet なんぶ」と連携し、スポーツによる健康づくりや地域づくりについて、幅広い人材の育成を図りつつ雇用の確保につなげます。	利用会員数 現状維持	利用会員数 1,097 人(H30)
子どもが健やかに育つ環境づくり	親育ち支援	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期の「パパ・ママ教室」 ・父親の育児を応援する「パパスクール」 ・継続的に子育てについて学ぶ「子育て親育ち教室」 ・ブックスタート・ブックセカンド・ブックサード 	<ul style="list-style-type: none"> ・「パパママ教室」対象者参加率 60%(年) ・妊婦面談 実施率100% ・「パパスクール」参加組数 20組/回 ・「子育て親育ち教室」参加組数 20組/回 	<ul style="list-style-type: none"> ・「パパママ教室」参加率 44%(H30) ・妊婦面談 実施率100%(H30) ・「パパスクール」参加組数 21組/回(H30) ・「子育て親育ち教室」参加組数18組/回(H30)
	相談支援体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・支援プランの作成 ・定期的な乳幼児相談日を設置 ・子ども家庭総合相談窓口の設置 ・子育て支援サイトの運営 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援プラン作成率 100% ・乳幼児相談日の来所者組数 10組/回 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援プラン作成率 100% ・乳幼児相談日の来所者組数 11組/回(H30)
	乳幼児期の支援	<ul style="list-style-type: none"> 子育て交流室あいあい運営 一時保育事業 病児・病後児保育事業 ファミリーサポートセンター運営 在宅育児世帯補助事業 ほか 	あいあい延べ利用者数 子ども2,000人(年)	あいあい延べ利用者数 子ども1,374人(H30)
	児童の放課後の居場所づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・法勝寺児童館、宮前児童館、放課後児童クラブ(ひまわり学級、あいみ児童クラブ、東西町児童クラブ)の運営 ・子どもの広場(仮称)整備 	児童館延べ利用者数(子ども)13,000人(年)	児童館延べ利用者数(子ども)10,689人(H30)
	保育園の整備計画	子ども・子育て会議と行財政運営審議会とで連携して検討します。	保育園整備計画を策定	—

	保育士の確保	保育士の処遇改善・事務作業の見直しを図りつつ、福祉人材バンク等も活用し、保育士確保に努めます。	待機児童 0 人	待機児童数 H30.4.1…0 人 H30.10.1…10 人 H31.4.1…0 人 R1.10.1…0 人
健康づくりの推進	生活習慣病予防の強化	<ul style="list-style-type: none"> 魅力的な健診実施と、効果的な受診勧奨 町を挙げた減塩の取り組み 口腔機能向上のとりくみを集落で実施(健口スマイル事業) 	<ul style="list-style-type: none"> 健(検)診受診率 50%(R6) 学校や企業とも連携し、食塩を摂りすぎない風土づくり 	特定健診受診率 37.1%(H30) ガン検診受診率(乳・子宮除く) 40%(H30) 乳がん、子宮がん 30%(H30)
	まちな保健室整備	<ul style="list-style-type: none"> 振興区単位でのまちな保健室実施 出張まちな保健室として集落開催 100歳体操(高齢者の集いの場)でのまちな保健室実施 併せてまちな保健室基幹型常設を検討 	年間延べ利用人数 1200 人(年)	年間延べ利用人数 1057 人(H30)
ともに支え合う地域づくり	「小さな拠点」の整備	高齢者を中心とする地域での交流や支えあいの拠点として、各地域振興協議会単位で1箇所程度を目標に、生活・福祉サービスを一定のエリア内に集め、周辺集落と交通ネットワーク等で結ぶ「小さな拠点」(多世代交流・多機能型)を整備し、持続可能な地域づくりを推進します。	小さな拠点新規整備 1 カ所	検討委員会で検討中
	ICTを活用した集落ケアモデル事業	ICT等未来技術の活用により、日常生活の不便性を解消するような支援を行うモデル事業を実施します。	モデル集落数 累計 2 カ所	モデル集落数 1 カ所(H30)
	あらたな地域ヘルスケア事業	<ul style="list-style-type: none"> 実施集落への後方支援 サポーター、ボランティアの養成 	100歳体操開始集落 10 集落(年)	開始集落 9 集落(R1) <ul style="list-style-type: none"> サポーター25 受講 リーダー18 名 受講
	認知症対策の強化	<ul style="list-style-type: none"> 認知症状に伴う独り歩きによる行方不明に備えて、地域の連絡ネットワークの構築や訓練を実施 地域の居場所に専門職が介入し運動や健康教育等を推奨 認知症カフェの新規開設を支援 	ネットワーク構築の訓練を 1 回開催(年)	訓練実施 1 振興区(R1)

元気高齢者の活動支援	あいのわ銀行運営 ボランティア育成	・支え合い講座 受講者 20 名 (年) ・あいのわ銀行 新規協力会員 10 名(年)	・支え合い講座 受講者 11 名(R1) ・新規協力会員 12 名(R1)
ICTを活用した高齢者の見守り	・あんしん見守り助成事業 ・AIを活用した新たな見守りサービスの検討、研究	—	—
ひとり親家庭支援	ひとり親家庭に対する就労支援等の相談支援を行います。	相談支援件数 65 件(年 15 件)	相談件数 15 件 (H30)
障がい者雇用の拡大	企業に対する障がい者理解の啓発を図るため、県アドバイザー及びハローワークと連携して町内企業へあいサポート運動を紹介するとともに、障がい者雇用の助成金やジョブコーチの派遣等の制度の周知を行います。	制度周知を目的とした町内対象企業訪問 5 社(年)	訪問企業と日程調整できず
福祉就労の拡大	福祉就労を促進するため、希望者に相談支援事業所や障がい者就労・生活支援センターなどの紹介を適切に行い、ハローワークと連携した就労支援を行います。あわせて、自治体として障がい者優先調達推進法による福祉施設への発注にできる限り努めることにより、工賃の向上に繋げ生活基盤の安定を図ります。	障がい者就労施設等からの物品等の調達実績対前年比増	優先調達目標達成 (H30)
IOT等を活用した発展的なまちづくり	効率的かつ継続的な見守りシステムを整備し、離地でも家族や医療関係者のサポートを受け入れる体制づくりを進めるとともに、働き方改革にも繋げることで地域の産業振興にも寄与するよう努めます。	—	—
社会参画促進支援	・全戸訪問の実施 ・ひきこもりに関する窓口の紹介 ・講演会の実施 ・こころの相談会の実施 ・社協、いくらの郷との連携	・全戸訪問を行い、8割把握。 (R6) ・年に1回、講演会の実施。	—

3 豊かな里に調和するまちづくり

(1) 暮らしやすいまちづくり

【めざす姿】

- 米子市と町の中心部への移動の利便性の向上をめざし、地域全体を見渡した公共交通ネットワークを再構築します。
- 道路を適正に維持管理し道幅の狭い箇所は部分拡幅を行うなど、人と車の通行の安全性を確保し利便性の向上を図ります。通学路を中心に道路改良事業を実施し道路改良率と舗装率を向上させ、除雪作業を充実し、より円滑な雪道交通の確保をめざします。
- 災害時にも安定的に水道水を供給できる水道施設の機能向上と老朽施設の更新を進め、污水处理施設の適正な維持管理と延命化により上下水道施設の充実を図ります。
- 環境美化活動への参加を促進し、不法投棄防止対策を推進していきます。また、太陽光やバイオマスを利用した天然エネルギーの確保、ペットボトル、瓶、缶、紙類などの分別収集をさらに進め、資源をリサイクルし、環境に優しい持続可能なまちづくりをめざします。

SDG s（持続可能な開発目標）のゴール



(2) 住みたい、行きたい、帰ってきたいまちづくり

【めざす姿】

- 町内に住み続けることができる環境や体制の整備を図るとともに、町外から人材を呼び込むことで人口の減少を抑制し、まちの活力の維持向上を図ります。
- 町外からの交流人口の増加を図るとともに、地域内交流を促進し、地域の活性化を図ります。
- 滞在・交流型観光を推進し、南部町の里地里山などの資源を活かした観光地としての魅力を向上し、来町者の増加と地域経済の活性化を図ります。

SDG s（持続可能な開発目標）のゴール



(3) 安心安全なまちづくり

【めざす姿】

- 地域での防災対策や自主防災活動等の重要性を積極的に啓発して組織づくりを進めます。避難行動要支援者をはじめ、町民の安否確認と被害状況を確認する体制を整え、初動活動

として町民の協力体制の確立をめざします。

○通学時の防犯対策や、防犯灯の設置、消費生活における被害を未然に防ぐなど、町民が安全で安心して生活ができる地域社会を構築します。

○町民一人ひとりが交通ルールを守るとともに、正しい交通マナーを実践し習慣化することができるよう、交通安全意識の高揚を図り、交通事故のない町をめざします。

SDGs（持続可能な開発目標）のゴール



(4) 具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標（KPI）

基本事業	施策名	具体的な施策	KPI	現状指数
快適な生活環境の整備	公共交通体系の見直し	大型輸送から小型輸送への転換を念頭に、タクシーに近いデマンド交通の導入を進め交通の利便性の向上を図ります。	新交通体系の整備（移動手段の確保維持）	検討に着手
	道路、橋梁等の老朽化対策	15m以上の橋梁の長寿命化計画及び道路ストック点検を基に作成する補修計画により、安心して安全なインフラ管理を行います。	・定期点検 橋梁 200 橋 (R2~R6) ・橋梁補修 37 橋(R2~R6)	・道路法による定期点検 ・橋長 15m 以上の橋梁数
	上下水道施設の老朽化対策	水道事業について、緊急度、優先順位をつけ、国庫負担金等の活用を検討しつつ計画的に施設の更新を行い、安全で安心できる生活基盤を確保し、水道事業の安定を図ります。 また、下水道事業について、施設の機能診断を実施して長寿命化計画を策定。国庫補助金を活用し更新を計画的に行うことで、安定した事業の継続を図ります。	・水道事業 城山配水池の改良、更新 (R6) ・下水道事業 東西町処理場の改良、更新 (R6)	R元年度 経営戦略(施設更新計画)策定中 ・R元年度 ストックマネジメント計画 (施設更新計画)策定中

	道路網ネットワークの整備	農産物の出荷、工場からの製品の出荷等物流における道路のネットワークは重要な役割を担っており、特に、米子道へのアクセスが課題となっている。また、逆に米子道からのアクセスもわかりにくいいため、短時間で目的地をつなぐ、わかり易い道路網を再検討します。	新規路線整備 1 路線、既設路線整備 2 路線の事業着手 (R6)	県で検討中
	次世代情報基盤の推進	今後必要となる通信基盤環境について検討を行います。	—	—
	地域と事業者が連携した買物支援	新たなシステムを活用し、買い物代行を基軸としたプラットフォーム化を構築するとともに、実証実験などを行いながら、その他の日常的なサービスの拡充も検討します。	—	サービス内容の検討
	RPAを活用した窓口業務の簡略化 (RPA:Robotic Process Automation)	RPAを導入し、各種申請書の発行、ふるさと納税受付処理のほか、RPAのみでは自動化できない業務も別の媒体と組み合わせることによるトータルソリューションの活用検討を行います。	—	—
	塵芥処理事業	布類、小型家電を分別し、再資源化を図ります。	リサイクル率の向上 37% (R6)	リサイクル率の向上 32% (H29)
	二酸化炭素排出実質ゼロ推進事業	環境問題に関する普及啓発事業。南部町地球温暖化防止実行計画を見直します。また、南部だんだんエナジーと連携した再エネ・省エネ事業、レジリエンス強化事業、エネルギー設備統括管理事業を実施します。	令和 2 年度の実行計画により設定	—
移住定住・交流・観光の推進	なんぶ里山デザイン機構との協働	町内企業就職相談会の実施や、「空いた時間にちょっと働きたい」というニーズと「ちょっと手伝ってほしい仕事」をつなぐ「しごとコンビニ」の仕組みの導入を検討します。	就職内定者累計 100 人	内定者 12 人 (R1<R2.2 月現在>)
	赤猪岩神社の情報発信	再生・復活・昇運の赤猪岩神社にふさわしい催事を観光振興の観点から支援し、全国に情報発信します。また、町内事業者と連携したオリジナルの土産品開発を行います。	赤猪岩神社参拝者 5 万人 (R2~R6)	45,750 人 (H27~H30 年)

さくらまつりの充実	さくらまつりの観光客を増やすため、昼間のイベントだけでなく、夜桜のライトアップや飲食できる場所を提供します。また、法勝寺だけでなく、緑水湖畔や小松谷川土手、花回廊などへも周遊できるようなルートを確立します。	入込客数 6万人 (R2~R6)	入込客数 5.4万人 (過去5年)
さくらによるまちづくり	ボランティア等による桜を守り育てる取組を支援し、老木化の対策を進めるとともに、町内への桜植樹の拡大など桜のまち南部町に向けた取組を支援します。	・植樹等のボランティア数 5団体 ・活動 10回	・植樹等のボランティア数 5団体(R1) ・活動 10回(R1)
自転車によるまちづくり	観光振興と町民の健康づくりのため、広域ルートも含めた多様なサイクリングコースを設定しつつ、自転車道を整備します。あわせて、サイクリングイベントを開催するなど、サイクリストの集う観光地としての魅力アップを図ります。	サイクリングガイド 30回 (R2~R6)	—
金田川ホテルを活かした地域づくり	金田川のホテルを活かした地域づくりを支援します。	観光入込客数 50,000人 (R2~R6)	観光入込客数 約50,000人 (過去5年)
里山まるごと体験観光と民泊の推進	各種自然体験や農林業体験等の里山の魅力を体験できるメニューを創出し、古民家等を整備・活用しながら提供し、誘客の増加につなげます。また、各種体験メニューとあわせて宿泊のできる民泊の体制を構築します。	・体験型観光での誘客 500人 (R2~R6) ・民泊施設の累計 10軒	・体験型メニュー 6件 ・民泊施設 8軒 (R1 現在)
オリジナルな土産物の開発	既存の土産物を観光客や都会でも売れるよう、パッケージ等の改良を行います。	・食品 5件(R6) ・食品以外の商品化 5件(R6)	・食品 2件 ・食品以外 1件 (R1 現在)
観光パンフ等の作成	環境に配慮し、紙ベースのパンフレットだけでなく、電子パンフレットやアプリの開発を行います。	・観光地図作成 5種類 ・アプリ 1種類 ・サイクリングルートマップ°配布数 1,000枚	4種類 (過去5年)

移住者向け住宅の整備促進	移住者のニーズに立った住宅団地の造成や民間賃貸住宅等の整備を促進するとともに、空き家を確保し、移住者に提供することにより人口の増加につなげます。また、移住者向けに水回りやトイレのリフォームを支援する制度を創設します。	整備住居数 累計 50 世帯分	整備住居数 24 世帯 (R1 現在)
子育て世代向けの住環境整備	子育て世帯向けの家賃助成や三世帯同居を促進する住宅施策を講じることで、町への U ターンを促進しつつ子育ての負担軽減を図ります。	・家賃助成 50 件 (R2~R6) ・三世帯同居住宅補助 25 件 (R2~R6)	・家賃助成 11 件 (R1<R2.2 月現在>) ・三世帯同居住宅補助 5 件 (R1<R2.2 月現在>)
全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」の推進	全世代・全員活躍型「生涯活躍のまち」の実現に向け必要な事項となる「活躍・しごと」、「交流・居場所」、「住まい」、「健康」について、地域再生推進法人や地域振興協議会、関係人口人材等との官民協働で取り組むことにより、移住者を含めた地域住民にとって暮らしやすいまちづくりを推進します。	町外からの転入者 1600 人 (R2~R6)	町外からの転入者 272 人(H30)
企業版ふるさと納税	なんぶ創生総合戦略に位置付けられた事業を対象に、企業からの寄付を受け付ける「企業版ふるさと納税制度」の登録を目指し、同制度を活用し南部町の総合戦略の取組みに寄付を頂く企業を募集します。	—	—
「全町学びのキャンパス化」の推進	大学生等若者を誘致し、南部町を社会的課題解決のフィールドワークの場として活用していただき、地元住民との交流も図りつつ、将来的な移住定住に結び付けます。	来町者 50 人 (R2~R6)	来町者 50 人 (過去 5 年)
婚活イベント等の開催	気軽に楽しく参加でき、カップル成立の増加につながるような婚活イベントの開催を行います。また、県外からの移住を促進するようなイベントを仕掛けるとともに、その後の交際の継続、成婚につながるような支援や後押しを行うブライダル業との連携組織化を図ります。	・婚活イベントカップル成立 50 組 (R2~R6) ・成婚数 10 組 (広域での取組含む) (R2~R6)	・婚活イベントカップル成立 34 組 (H27~R1) ・成婚 3 組 (H27~R1)

	さいはく分館の改築による複合施設の整備	南部町公民館さいはく分館を改築し、南部町生涯活躍のまち構想の中核施設となるハブ拠点として、多世代の地域住民が集い、交流できる複合施設を新規整備します。	施設整備 1 棟	—
	緑水園周辺の再活	緑水園周辺施設で連絡会を開催し情報共有と連携を図るとともに、活性化のための計画作成に取り組みます。	各施設利用客 10%増 (R6)	(H30 実績人数)7 緑水園 25,721 バンガロー 3,462 研修館 1,323 オートキャンプ場 1,449 アリーナ 1,809 レストハウス 2,772 森林公園 817
生活安全体制の強化	防災士の育成	地域での防災対策や自主防災活動等の重要性を積極的に啓発して防災士の育成を進めます。	35 名 (R2~R6)	7 名(R1)